

金沢赤十字病院薬剤部の紹介

(1) 薬剤部の職員 薬剤師 13名（1名欠員中） 事務職員 3.5名

(2) 業務内容

[調剤・注射薬調剤] ・処方箋鑑査・患者にあった調剤・疑義照会など。

・施用ごとの注射薬調剤・配合変化の確認など

[病棟業務]

・病棟の薬剤管理業務全般と服薬指導

・他の医療スタッフへの情報提供・処方提案など

[抗癌剤の化学療法] ・入院・外来すべての抗ガン剤治療を一手に行っている。

[その他]

・医薬品情報提供（DI）業務・医薬品管理業務・治験など

[医療安全]

・薬剤部より1名専属のリスクマネージャーを配置

[チーム医療への参画]

・緩和チーム、栄養サポートチーム、感染対策チーム、糖尿
病チーム などに積極的に参加しています。

今後の医療において病院薬剤師の役割

- * 保険薬局薬剤師と異なり、臨床薬剤師としての経験をつみ知識を得る。
- * 院内でのチーム医療への貢献
- * 地域に目を向けた薬・薬連携への貢献



糖尿病チーム

： 当院には代謝内科医を中心に看護師・栄養士・検査技師とともにチームを組み、入院および外来の糖尿病患者の指導・管理に携わっています。薬剤師も、薬の指導のみでなく患者に寄り添った関わりに心がけています。（血糖コントロールが悪い他科の患者のフォローも行います。）

また、院内で糖尿病治療に関する勉強会も行っています。薬剤師ももちろん講師を務めています。また、患者会なども積極的に行って分かりやすい食事指導や薬物療法指導を行っています。



糖尿病患者さんとの
食事会（交流会）

栄養サポートチーム

：消化器外科医師を中心に、栄養士・看護師・検査技師

・リハビリテーション技師とともに、依頼のあった患者

の栄養療法について検討・提案を行っている。

患者が、できるだけ食事をとれるような工夫も行っている。



カンファランス

抗がん剤化学療法（消化器センター）：

当院では、外来・入院に問わず全ての患者さんの抗がん剤治療を消化器病センターで行っています。安全キャビネットを配備し、暴露（ケモセーフの使用）を防いだ環境で薬剤師は患者さんの治療に合わせて混注を行っています。

さらに、患者指導および在宅患者さんへ週に1回の電話（**オアシスコール**）で副作用のフォローを行っています。

緩和医療チーム：

週に1回、緩和ケア（癌性疼痛や骨折などの慢性疼痛）の必要な患者でコントロール不良患者にチームとして主治医に対し、アドバイスをしています。

さらに、在宅治療を受けている患者に、保険薬局薬剤師へ指導を行うこともあります。

院内感染対策チーム：

週に1回ラウンドを行い、院内のチェックを行います。また、薬剤師は抗菌薬の使用方法に問題がないか調査を行っています。また、治療法に困った場合には医師などにアドバイスも行っていきます。

医療安全：転倒転落対策チームへの参画：

近年、高齢化が進み院内での転倒転落も課題の1つとなっています。そのため、対策チームを作り調査・検討を行っています。薬剤師は薬剤が原因となる可能性を調査しています。

金沢赤十字病院薬剤部独自の活動の一つに

金沢南地区薬・薬連携研究会

本研究会を発足した背景には

“病院医師・薬剤師と薬局薬剤師が、顔の見える関係となり、気軽に聞くことができるようにしたい”

が根底にあります。本研究会は、抗がん剤・緩和ケア・糖尿病治療を介して互いに知識・技能を身に着け、患者が入院中から退院後の外来通院においても同様の治療を継続的に受けられるようにしたいと考えています。疾患別に、様々な手法を試みていきます。



世の中の現実を知ろう！！

そして

病院薬剤師の未来を考えよう！！

